



夏号

編集・発行 NPOハマには浜を 〒231-0023 横浜市中区山下町73-2-803 電話/FAX 045-663-7426 http://hamahama.jp office@hamahama.jp 発行人 飯田 修永 編集人 伊藤 久美子 印刷 プリントランド

ハマには浜をとは

横浜に砂浜を再生する活動を通してさまざまなことを考え感じていきたいと考えています

三日住めばハマっ子

「江戸っ子は三代続かない」と江戸っ子といわれませんが、ハマっ子は、三日住めばハマっ子」ハマっ子でもあたる随筆家の故青木雨彦さんの名言といわれています。保土ヶ谷宿や神奈川宿は、江戸時代に整備され、栄えていた宿場です。東海道や各街道が整備され、きつと人が行きかう町だったのでしょう。江戸時代、現在の横浜地域に住んでいた農民の識字率は大変高かったといわれています。村役人は農民の身分でありながら、旗本や代官に代わって村政を担うことを求められた結果だそう。当然といえ、当然ですが、そういう農民の中には読み書き、算術にとどまらず、俳句や短歌、生け花、甚など文化活動をおこなうものも現れていたそう。

日経新聞の朝刊3月13日を見ていました。日興コーディアルグループの株の上場維持決定の大きな記事の傍らの小さな見出しに私の目にとまりました。「リハビリ打ち切り、狭心症など1割、厚労省、上限規制見直しへ」という見出しでした。何故、経済欄に分類記載される記事なのか？

浜の旗振り(理事)のひとり言

首を傾げましたが、昨年の診療報酬改定でリハビリテーションの診療日数を原則として「最大一八〇日間」とした制限を、ともあれ一部見直すと言った記事でした。この制限の撤廃を求めた署名活動があり、二〇〇六年6月30日に厚労省に提出した署名総数は四万四〇二三名、国民二九二人に一人が署名したことになりました。

たがらないもので、組織となるとなるとおのずから易々と進まないかも知れません。しかし、人の思いの強さ、強烈さが一念発起となり動かし得たのは事実です。浜は、市民一人一人が望み力を合わせれば、出来ます。結局のところ皆で無くなりましたから皆で作ります。 理事長 飯田修永

イベントや見学、特派員情報とは？

横浜は、開港一五〇周年に向けた活動、開発が活発で、街並みが日々変化しています。さまざまなことを世代から世代へ伝え、ともに考えることは、大切なことではないでしょうか。世代交流が少なくないといわれる今、世代を超えて横浜を考えることは必要かもしれません。「浜の記憶」写真展は、ともに感じる空間構築の試みの一つです。ともに同じ時代を生きているのですから、未来を考えることに年齢は関係ありません。生きてきた知恵や経験は、とても貴重なものです。

ハマ浜の活動は、ともに感じ、知り、考えるイベントや見学、情報発信をおこなっています。

砂浜再生には、関係のないように感じるものもあるでしょう。知ることから始めようという試みもあります。特派員の横浜情報、全国の砂浜など、住民だけでなく、全国で横浜を愛して止まない「ハマっ子」から情報が集まることも「横浜」という街を象徴しているのかもしれない。

横浜火力発電所 トウイニー・ヨコハマ見学会 第3回 1月27日(土)

「知ったつもり、知ったかぶりは駄目だね」と、毎回違った発見がある見学会はスタートしました。映像、施設案内と説明受け、展望塔トウイニーへ移動します。環境に優しい、煙がほぼ出ないため、煙突でなく、排気塔とトウイニーは呼ばれています。見学中、「日本中の温かい便座のコンセントを一緒に抜いたら一〇〇万KWの節電になります。どれくらいか？」という原子力発電所のユニット分に相当します」との話がありました。砂粒を集めるように思いを集めるハマ



「アジュール舞子」神戸市垂水区海岸通 人工砂浜 財団法人 神戸市緑化協会HP内 アジュール舞子 http://www.kobe-park.or.jp/azur/ 延長約800メートルの「海水浴場」や「バーベキューコーナー」温泉施設「垂水温泉 太平の湯」宿泊施設「リーパーホテル+オーシャン セトレ」有料老人ホーム「チャミング・スクエア舞子」などが併設されています。

横浜市民防災センター見学 3月10日(土)

防災センターは、さまざまな資料の展示と地震、暗闇、煙、消火器を使うなどの体験設備があります。インターネットなど、たくさん情報は、わかったつもりになることが逆に恐ろしいことです。ハマ浜は、定期的に知って感じる横浜市民防災センター見学をおこなっていきます。

ハマには浜を！ ステッカー制作中

購入し参加、貼ってまわりの方へ知ってもらおうという活動の一環です。 購入し参加、貼ってまわりの方へ知ってもらおうという活動の一環です。



「浜の記憶」写真展

山下公園の銀杏の苗が、一九二七年に植えられ、神奈川百選にも選ばれる素敵ないちよう並木へと育っています。一九三〇年に造られたインペリアルビルは、ほとんど同じ時の流れの中、横浜を見つめていたのでしょうか。在りし日の横浜の写真を、このインペリアルビルで開催できたことに、何か縁を感じました。

縁：偶然、それとも必然？に、ご覧頂いた方々、お話の時間をもてた方々、ありがとうございました。出会いの中、在りし日の横浜、これからの横浜への思いを共有できた素敵な時間、感謝と次への力を頂きました。たくさんの方々と、写真展を楽しめる空間を構築していきたいと思っています。

